

## 教育の経済的価値

——事例としての進学の経済効果——

学長 高見 茂

### はじめに

それでは、学長講話を始めたいと思います。今日のテーマは何をやるうかと、先だつてからいろいろ考えていたのですが、やはり、高等教育機関に進学するということは、どういう意味を持っているかということを観的に知る方法はあるのだろうかということを考えました時に、教育というものが非常に経済的な価値を持っている、これを事例として進学の経済効果について考えてみるということをして選び、みなさんにできる限り解りやすくお話をしてみたいと思っております。内容の項目につきましては、今日、レジメを作っていたら、そちらの方を少しご覧頂きながら話をお聞きください。

## 一・データ分析の重要性と政策形成

まず、ここに出ておられますのが、「男女共同参画白書」という、平成三〇年版、一番新しいものでありまして、高校の進学率　男子、女子、この一番上にあるのがそうですね。ほぼ一〇〇％近い数字になっております。それから、高等教育機関への男子の進学率が五・九ぐらいで、この緑のカーブが昭和三〇年代、一三・一％ぐらいから、多少の凸凹はあっても、今は五五、五六％の水準にまでいっている。女子の場合は、初めは低かったけれども、だんだんだんだん、高くなって行って、こここの点、これはだいたい平成四年か五年頃ですが、四年制の女子大への進学が短期大学への進学と逆転しています。近年は四年制大学に行くという人が増えてきていて、五〇％弱ぐらいの水準になってきているというのが今の進学率の現状になっているというところであります。それで、次に出てきたのが、専攻分野別に見た学生分布（大学（学部）の推移（男女別））を示しているものなのでありますけれども、やはり理系は男性の方がまだ圧倒的に多くて、人文科学系は女性の方が、社会科学もそうであります。シエアを占めている。ただ、薬学、看護なんかはやっ

ばり女性の方が多いし、教育も同様の傾向が見られます。これが現状になるわけです。

国は、科学的なデータを根拠として、進学というもの—具体的にはどれぐらいの進学率になるのか予想し教育政策を策定するのです。それでは政策分析をやる場合、どういう手法でやっているのか、授業で扱う場合は詳細な説明を致しますが、今日は簡単なモデルを用いて結果だけを簡潔に説明致します。分析に用いる手法は重回帰分析と言われるもので、進学行動を示す推定式を策定し、推定式にデータを投入して現実の社会関係、推測をすることができるものであります。これは二〇〇七年までの事例に焦点を当てて計算したものです。進学率がどれくらいになるかということを決める場合に、規定要因としては、児童・生徒のいる世帯の平均所得、すなわち授業料負担の問題—お金の問題ですね。それから志願率、いわゆる学校へ進学したいという人がどれくらいいるかということ、入学定員がどれくらいかという、この四要素によってほしい進学率は決まってくるわけです。ですから、それぞれのデータでもって、独立変数として進学率を予測することは、わりとたやすくできるのです。大学入学を志願されるなら、こういうケースについて事前にデータ解析するような学習を試しにやって頂くと、現実に非常に近い数字が出てきますから面白いと思います。近年はやはり、ICTとかAIというものについてプログラミン

グの学習なんかやらなければならない、データサイエンスについても馴染んでいかなきゃならないという時代になりますから、こういうデータを使って分析をする解析をするということも文系、理系問わず必要になってきます。多くの患者さんの多様な病理データを測定した結果を見て、これは病気の領域に入っているか否かという事、あるいは社会科学の中で、ここでは進学率を取り上げましたが、子どもの学力の問題をやる場合もデータでもって分析するということは結構あるわけです。重回帰分析で進学率を再現してみると、現実の値と再現した値が非常に近い数字で出てきます。ですから重回帰分析等々を使うことによって、こういう面白い分析が可能であるということも知っておいて頂きたいと思えます。ここでは政策実験をやるのが目的ではありませんが、平均所得がどれくらいだったら進学率はどれくらいか、現役進学率をこれくらいにもっていきよかったですら、入学定員をどれくらいにもっていったら良いか、あるいは所得が低ければ進学できないということになりますから、奨学金をどの程度用意すれば良いか、というような事がだいたい予測できるわけです。ですから、社会科学の領域の中でもデータを活用する事によって、こうしたことが可能になるという事を知っておいてください。データを駆使してケーススタディを試み、予想結果を踏まえて政策形成することの重要性を理解して頂きたいと思えます。

## 二：高等教育進学の意義

じゃあ、皆さんもいろんな事情があつて、高等教育機関である光華女子大学、短期大学部に進学をされた訳ですが、なぜ高等教育機関に進学されたのでしょうか。少しフロアの皆さんと意見交換をしてみたいのですが、今日は時間の制約もありそれが叶いません。それで私の方で進学理由を申し上げますが、進学することによって何らかのメリットすなわち便益、得ることがあるから、何か良いことがあるのではないかと思われたから進学をされたということですね。どうでしょうか、皆さん、こんな勉強をしたい、こんなことを学びたいという進学理由もあるとは思いますが、学んだ結果、将来こういう方向の仕事に就きたい、そしてその仕事は、給与が良いとか、やりがいがあるとか、いろんなメリット、便益が教育の結果得られるわけですよ。ですから、進学をするということは、何らかのメリットがあるから、みんな進学をするわけです。高等教育機関に入学しても何もメリットがなかったら誰も進学はしません。その具体的な中身は何か。様々な内容・要素・メリットがあります。その中で、データでもってフォローできるものは何か。数量化でき

るもの、数量でフォローできるものは、明確に、これはメリットがあるということが解るわけです。で、その典型は何か。これをちょっと見てみてください。「学歴・性・年齢階級別賃金」というものです。こちらは男性、こちらは女性です。男性で、二〇歳〜二四歳、五歳ずつの区切りで六〇歳ぐらいまで、ずっとこういう区切りがあります。それで、大学とか大学院を修了している人たちは、このカーブで行くわけですね。定年後賃金はそれほど伸びなくなってくる。高校卒だったら、やっぱり、大学・大学院卒の人と比べれば生涯において賃金のベースは低いという結果になっています。これは学歴というか教育歴、どういうレベルの教育を受けたかということが賃金に反映されているようなデータです。他にも進学をすることによっていろんなメリットがあります。あるのですけれども、賃金というところに焦点を当てると、こういうカーブが描かれるということになります。女性の場合、これを見てください。女性の場合も、大学・大学院卒がずっと上にあります。それから短大とか高専がその次のレベルであり、高卒で終わるとだいたいこういう水準で、高くなるという状況はほぼ見られないということであります。これだけ見ても、進学をして就職をするということには、一定のメリットがある。すなわち賃金面を見ただけでこれだけの違いがあるわけです。これを先ずしっかり踏まえて頂きたい。ですから、み

なさんが高卒で就職ではなくて、高等教育機関に進学されたということは、こういう一番上のカーブで、将来就職される、結婚されてからもずっと働き続けられるとしたら、こういう状況の賃金の流れの中に乗ることができるということですね。

これがちよつと小さくて見えにくいかもしれませんが、第三表として出てきているのが、「学歴、性、年齢階級別賃金、対前年増減率及び年齢階級間賃金格差」です。これは様々な属性によつて賃金格差がどれぐらい生じるかということを見ております。下の方が女性の二〇歳から五歳刻みで六九歳まで、だいたい平均してみたら、月どれぐらいの給与をもらっているかという平均です。ここが大卒・大学院卒、こちらが高専・短大卒、そしてこちらが高卒です。ここをずつと見ていただいたら、もう最初から結構いろいろと差がありますよね。その中でもう少し詳しく見てみると、どんなことが明らかになるのか。二〇歳から二四歳といえば、ちよつとみなさんにとっては四、五年先になるのですけど、大卒・大学院卒だったら、だいたい二二万程度であるということを示しています。そして、高専卒・短大卒だと二〇万ちよつと、高校卒だったら一八万三三〇〇円程度ということ、実際、どういうレベルの教育を受けて就職しているかによつて、賃金がどれほど違つかを示しています。同じ年でも高卒なのか、高等教育修了者かどうかによつて四万円ぐら

いの違いがあるのです。これはやはりかなり大きい金額だと思います。これが生涯所得になったらどれぐらいの大きさになるか。ちょうど私が若い頃に、奈良県内の私立大学におりまして、こういう研究に興味があり、計量分析をやっておりました。その当時は、ちょうどバブルの頃でして、高卒と大学院・大学・短大卒で、生涯所得つまり一生涯働いて得られる所得にどれぐらいの差が出るのかの計算をやってみましたら、バブルの絶頂期で五〇〇〇万円という計算結果が出てきました。五〇〇〇万というのは家一軒買えるかどうかの違いがあるわけです。これは非常に大きいと思います。で徐々に年齢が上になると格差が大きくなるのです。五〇歳ぐらいになると、大学・大学院卒は三八万四三〇〇円だけでも、高卒の場合は二二万七〇〇〇円ですから一〇万円以上の差が開く結果になっていきます。ですから年齢が高くなればなるほど、差は縮小するどころか差が開いて行く一方なのです。これが現実です。ですから、進学をした事ことは、みなさんは一番上のカーブに乗る可能性を掴んだということなのですよ。これをよく理解してください。非常に大事なこれはポイントです。

### 三、賃金格差の要因―大学・短大の教育効果

じゃあ、なぜ賃金に差が出るのでしょうか。どうして賃金に差が出るのだということですね。これは、まあ当たり前だと思うのですが、大学・短大の教育によって様々な知識・技能を身につけることができます。それぞれ専門の学科へ入られて、専門教育をお受けになると先ず知識・技術が身に付く、その結果大学・短大を卒業した人は生産力、知識を活用して良い仕事や専門的に高度な仕事ができるようになりますよね。で、そのことに対して、高卒よりも、いわゆる生産能力が高いという評価をされるわけです。高卒で終わったら高度な専門的能力が身に付いていません。それと比べると、大学・短大で専門教育を受けるということはそれなりの知識・技術を身に付けている、経験を積んでいる、そこを高く評価し、その部分の能力が賃金に反映され、その評価として具体的賃金が決定されるということになります。高等学校までの学習に比べると、高等教育機関における学習は非常に幅の広いものになります。その点が高卒で就職した人と、大学・短大卒業者との大きな違いになると言われています。私が若い頃におりました私立大学で、デパートの人事部

長、そのデパートでは数千人の人事を人事部長がお一人で担当され採用するかどうかを最終決断してられる方に来ていただいてお話をしていただきました。そこでは、高卒で就職する子と大学・短大を出てくる子とは全く違う、二年ないし四年年間の学びには素晴らしいものがあるとお話がありました。ですから、入学をしてそのチャンスを掴む、今そのとっかかりのところにみなさんはおられるわけですから、ぜひがんばって卒業資格を取得され、一番上のカーブを走る人生を歩んでいただきたいと思えます。

#### 四、高等教育で培う能力の内実―二つの能力

では大学・短大で身につく能力って一体何なのでしょう。それは大別すると二つあります。一つは、直接に有用な知識・技能、すなわち医学・工学・法学・会計学、光華の場合ですと看護、栄養、心理、社会福祉、言語聴覚、教育、キャリア形成、ライフデザインといった専門学科で身に付けることのできる知識・技能がこれに入りますね。もう一つは、高等教育機関で授けられる教育の特徴―高等教育のレーゾンデートルに位置づけられる教育です。後者は、教養教育とかあるいは光華ではリベラルアーツと言われる初年次か

ら学ぶ、専門とは少し毛色の違う授業で行われる種類の教育に当たります。リベラルアーツすなわち一般教養科目が何故置かれているか。前者教育、すなわち専門教育しかしないのは専門学校なのです。みなさんは専門学校ではなくて、リベラルアーツ教育も実施する高等教育機関、いわゆる大学・短期大学に入学されたことを良く自覚していただきたい。確かに専門教育だけだったら教育は極めて効率的です。ところが教養教育、こちらが何故必要なのか。それは学生さんの応用力とか分析力、思考力、判断力を育成するために、一般教育、教養教育、リベラルアーツが絶対必要だからなのです。今の時代、みなさんAIってご存知ですね。人工知能が私たちの生活空間、職域空間にどんどん入ってきています。今最も心配されていることは、二〇四五年にシンギュラリティが起こるかも知れないということなのです。人工知能が暴れ出して人間を支配する力を獲得するようなSF映画見られた経験ある方どれぐらいいらっしゃいますか。コンピュータが暴れ出すとか、コントロールが効かなくなるような内容の映画です。ひよっとしたらそんな時代が来るかもしれない。そうさせないためには、やっぱり人間は、一般教養教育を通じて、善悪正邪を判断できる力を獲得しておかなければならない。技術だけを突き詰めると、どうしても弊害が出るということがあります。例えば日本の近代史における大きな出来事として、か

つて日本は第二次世界大戦で敗戦国になりました。何故敗戦国になったか。これはやはり軍人の教育が失敗だったという話があります。効率よく戦に勝つこと、すなわち戦争遂行のための専門教育だけをやっていたわけです。陸軍も海軍も。専門教育に加えて一般教養教育、リベラルアーツ、これをちゃんと学ばせていなかったことが原因だということです。たとえば捕虜に対する虐待が何故起こったのか。効率よく戦争に勝つことしか学んでないから、幅広い知識・教養というものを学ぶ機会がなかった。これが大きな失敗の原因になっているということでもあります。ですから、今、大学において一般教養教育科目が重視される所以なのです。これは何も今に始まったことではなくて、古代ギリシャで行われていた教育から一般教養教育を重視する流れはずっと続いているのです。数千年に亘ってこの教育は大事だと言われています。一般教養教育の中でも、特に問題解決、課題解決能力の強化が求められています。みなさんの中には、国家試験を受けられる方もいらっしゃると思いますけれども、各学部の専門教育を担当していらっしゃる先生方から、最近その国家試験の内容、傾向が今までとは変化し始めているというお話をお聞きすることが多くなってきました。頭の中に詰め込んだこと、暗記したことを引き出してどれだけ答えられるかという類の問題ではなく、より具体的な状況を設定してその中でどう判断できるかという

ことが問われるようになってきています。そういう類の設問に対して、自分の頭で考え答えを導くことができる能力が求められています。そういう能力を錬磨する手段がリベラルアーツ、一般教養教育であり、これも合わせて大学・短大で学んでいただき、バランスの良い人材に育てていただくことが求められています。それが高等教育すなわち大学・短大教育の非常に大きなポイントであり、メリットなのです。このことを良く理解してください。

## 五. 高等教育の便益の内実

では先ず高等教育が生み出す便益として、投資としての側面を見ましょう。その内実は二つあり、Welch というアメリカの経済学者が言っているんですけれども、同一時間内の多数問題の処理ということです。われわれ人間に与えられている時間は一日二四時間です。睡眠、入浴、勉強、食事等、様々ないろいろなことしなきゃなりません。しかし、その時間を効率よく使って、いくつかの課題を並行してこなすことができます。こういうことができるようになるのが高等教育を受けた人と受けてない人は決定的に違います。同一時間

内の多数問題の処理という問題がこれに該当します。この能力が高等教育の中で身に付くのです。企業の人事担当者に聞いてみると異口同音に、高卒の人と大卒・短大卒の人との点が大きく違うと指摘しています。それから、ここに生産要素の効率的組み合わせ能力の向上、これは下のところに米国の農業経営者の事例って書いていますけれども、同じアメリカの小麦を作っている農業地帯で、隣同士の畑で収量が全く違うことを見出した研究例です。隣り同士の畑だったら、土壌の質はほぼ同質です。ところが片一方は農業大学を出ている。片一方は高卒。この農業をやっている二人が、実際小麦を作ったら農業大学を出ている人の方がはるかに収穫量が多い。これは、いつ頃どのように肥料をやったらいいかという知識を持っている。片一方はそういう知識を有していない。だから高等教育修了者と比べると収穫面で少なくなる要因の一つと考えられるのです。どういう要素を上手く組み合わせたら生産性が上がるかということは、専門教育を受けている人間だからこそできることなのです。こういう点が非常に大きいということです。それから対応原理っていうのがあります。これは高等教育というのは、それを受けた者が相対的に多く就く職業に相応しい態度、規律を身につけるといふことなのです。大学・短大を出て会社へ勤めホワイトカラーになったら、そういう人たちの立ち居振る舞いというものが自然に身に付いて

くると言われることなどはその典型であると指摘できます。先輩たちとの交流という縦の流れ、クラブ等々での情報交換あるいは授業を通じていろんな機会と出会いで人脈が拡がって行きます。ですから、そういう職域社会に入ろうと思つたらどういふ振る舞いをしなきゃいけないかということが自ずと身についてくるわけです。高卒の人ではなかなかこれが難しいという話があります。ですから、やはり高等教育を受けた人と、高校で就職している人の違いは、自主性とか、規律性、自己管理、これが高等教育修了者の方が完全にできるといふことは企業の採用担当者が口を揃えて言いますね。ゆえにそういう学びが大学・短大ではできるのだということをよく理解しておいてください。

それから三つめ、個人の日常生活でどんなことがあるかというところ、賢明な消費者としての能力が向上します。例えば金融商品を購入する、株式投資とか、預貯金等々ですね、どうしたらいいか、あるいは耐久消費財と言われる家とか車、高価なものを買うとか、安全な食品に関する知識、これもやはり高等教育を受けた人の方がはるかに多くの知識を持っていますし、近年、金融商品の取引で騙される人がいますね。お年寄りなんかオレオレ詐欺に引っかけたりする人もいますが、そういう被害者になる可能性が極めて低い。また、先だつての入学式の式辞でも申しましたけれども、子どもの育児・教育に関する知識

を獲得できるし、家族の健康維持・疾病の防止、配偶者の所得向上、これは米国の研究で見があります。妻の方がより高い教育を受けている場合は、夫の方の収入が非常に高くなる傾向があります。これはいくつかの実証研究も見られます。あるいはまた芸術・趣味・スポーツ活動の活発化という問題もありますし、社会的な側面として高等教育の効果についてののは、教育を受けた個人を越えて広がる特徴があるとされます。それは経済の言葉でオーバーフロー効果、あるいは漏出効果、漏れ出る効果と言います。みなさんは今日、私のこの話をお聞きになった。教育にはこういう便益があるということを含めて今まで気付いてられなかった、あるいは聞いていてもさっと聞き流されていた。でも今日この話を聞かれて誰かにこの話を伝えられたら、私の今日の講義は聞かれた本人を越えて一般に広がっているということになります。教育の非常に大きな効果は漏出効果、オーバーフロー効果、これを持つていうことです。ですから、教育を受けた個人を越えて教育つていうのは拡がります。ですから、一定程度の教育を受けた国民の厚い層がないとその国の経済は成長しないと言われております。これは非常に大事なことです。だからわれわれの先祖、明治維新をやった人たちは、いち早く教育制度を整えました。そのことを知っていたからなのです。教育の非常に重要なポイントは漏出効果、漏れ出てオーバーフローする。この効果

が非常に大事だということです。

それから、高等教育を受けた人が、専門的な知識でもって企業全体の競争力を高める有為な人材として、あるいは政治行政の分野で政治家・官僚として国益を守り国民を指導する重要な役割を担う貢献をすることも重要な効果の一つとして指摘できます。ですからそういう仕事をする人たちの育成を、高等教育の役割の一つとして捉えることができるのです。イギリスにおいては、今は有償化していますけど、昔オックスフォード、ケンブリッジ大学は私立大学であるけれども無償だったのです。授業料取らなかったのですよ。どうして取らなかったのか。イギリスのオックスフォード大学や、ケンブリッジ大学の名前を聞いたことある人どのくらいいますか？ 知っていますか。卒業生はトップエリートですよ。イギリスの指導者の多くはそこ出ていますね。イギリス人の観点からは、エリートというのは公共財―国民を導いてくれる大事な人材であり、そういう人材はみんな育てる。だから、立派な人材をオックスフォード、ケンブリッジで育てたら、その人たちの能力が社会全体に隈なく拡がって国益に繋がる。だから税金で彼らの面倒を見るという論理がイギリスではかつてはあったのです。このことも理解しておいてください。

それから大学・短大教育には、消費の面からの便益もあるのです。消費的便益と言われ

るものです。これは大学・短大在学中にだけ得られる便益なのです。この消費的便益の内容はここにまとめてございますけれども、第一に高卒で働いて就職するよりも大学・短大に進学してキャンパスライフをエンジョイできる方が楽しいですよ。自由・余暇の時間がたっぷりあります。高卒の子が会社へ入ったら、勤務規則に縛られて勤務時間内は拘束されますよね。みなさんは、それなりに長い夏休みがあつて、旅行等に自由な時間を活用できますよね。ですから、高校卒業まで比較的厳しい管理の中で生活していたのだけでも、大学・短大ではそうした統制が和らぐ環境にありますから、自由や余暇を満喫できるわけです。これは目に見えない、これはお金に換算できない消費的な便益になっていきます。このことも理解しておいてください。

それから私の経験ですけど、受験勉強が終わり大学へ入った一回生の夏休みというのはすごく楽しかったです。苦労して入って、やっと念願の大学に入れたなと思つて、そこではじめて私は良い友だちと出会いましたし、良い人間関係を作ることができました。そういうことがもし大学・短大でできるならこれは大学・短大教育のメリットになります。それから大学・短大生は、高校生と違ってちよつと格好良いライフスタイルを送ることができるとは思います。おしゃれもしたりできますし、高校とはちよつと違ったライフスタイルで

生活することができる。こういう部分も大学・短大教育の一つのメリットになります。

それから長期的に見た場合ですが、大学・短大教育の長期的な投資便益も検討する必要があります。時間があつたら光華女子大学・短期大学部に授業料払って将来みなさんが就職された場合、どれほどの生涯所得を期待できるのか計算していただきたいと思います。

またどれぐらいの投資効果があるか、利回りにすればどれぐらいか、一般の株式とか債券投資と比べてどれぐらい効果的か等、調べてみると様々なことが分かると思います。少なくとも総じて言えることは教育に対する投資は、金銭的な株とか債券に投資するよりもはるかに大きなリターンを獲得できる特徴があります。ものすごく教育はリターンが高いのです。驚くぐらい。今預金したって極めて低金利の環境にあります。市場金利が低いわけですから授業料払ってでも高等教育に進学した方が絶対将来的には得になります。たとえそのリターンが小さいとしても、消費便益を高く評価する場合は、進学を選びます。高卒で働くより大学・短大へ行ったら楽しいことがある。高度な知識・技能の勉強をしたいと思つたら進学します。

## 六：高等教育のコスト

大学・短大教育を受ける場合、消費としてのメリットがあるのですが、それには当然コストがかかります。大学・短大教育には費用⇨コストが必要なのですが、この費用の内実を今日はしっかりと学んでいただきたいと思います。みなさんは、直接費と呼ばれるものとは解つてらっしゃると思います。入学金、授業料、本代、通学費とか下宿費用がかかってきます。これは実際お金が出ていきますからどれぐらいの金額であるかは、直接感知できる費用ですので理解し易いのです。ところが問題はもう一つの費用類型である間接費の取り扱いなのです。間接費の大きさがどれぐらいか解つたら、皆さんは授業中寝たり私語をしたりすることは損失になることを理解されると思います。間接費は、大学・短大進学する時に発生させているが、直接感知できない費用で気づかないうちに発生させている費用なのです。この間接費とは一体何か。直接感知できないから費用としては感じないので。ところが実際は費用として発生します。みなさんの進路選択に照らして考えてみましょう。みなさんのお友だちの中で高卒で就職された方がいる人ちよつと手を挙げてくださ

い。それぐらいおられますか。その人たちは就職という道を選んだ。ところがみなさんは高等教育機関への進学、すなわち大学・短大進学という道を選ばれました。二年ないし四年時間が過ぎる。これから二年ないし四年間経過したらどうなるか。例えば、高卒で就職した人には年間二〇〇万円収入があったと仮定します。年間収入二〇〇万円あって、四年間（または二年間）先に働いているわけです。先に働いたらこの高卒のお友だちは八〇〇万（または四〇〇万円）稼いでいるはずなのですよ、既に。ところがこちらの方はどうか。高卒後就職しないで大学・短大に進学することは、得られた収入機会を放棄して進学をしています。だから、大学・短大へ来ることは就職をしないわけですから、正規に働いた時の賃金はもらえない。だからその就職機会で得られる所得機会を捨てているのです。この捨てた所得機会で得られたはずの所得を放棄所得と言います。ですから、みなさんは高卒後進学するについては放棄所得を発生させる、つまり高卒後の四年間（ないしは二年間）の賃金と同額の放棄所得を発生させているのです。放棄所得は気づかないうちに発生させますから、光華女子大学・短期大学部へ直接支払った入学金とか授業料、そのお金以外にこの放棄所得を発生させているのです。だから、アルバイトをすることは放棄所得を取り戻すことをやってらっしゃるわけですね。さらに掘り下げてお話をいたしますと、み

なさんがどうして進学することができたかというのと、この放棄所得を家計で吸収できるかなのです。みなさんのご家庭は、光華女子大学・短期大学の授業料、入学金等々のお金を何とか、何とかじゃなくて十分捻出できる。みなさんの働きがないと家計が成り立たないというわけではないので、進学できているということなのです。ですからこの放棄所得を吸収ができない場合の対策として国は奨学金を手当てしています。かつて士官学校・兵学校で職業軍人を、師範学校で教員を養成する場合に、授業料を無償にしさらに給料を出していました。これは、放棄所得が吸収できない家庭の優秀な人材を育成するための手立てだったわけです。この放棄所得は非常にやっかいなものでありまして、高卒の場合でも同じように、まあ中卒で卒業して就職する人はほとんどいませんが、高校へ進学することは中卒で働いた場合の三年間の所得を放棄して進学をすることになる。だから、みなさんの働きがないと家計が成り立たないというわけではない。十分みなさんの放棄所得も吸収した上で授業料等々のお金も出して進学の機会を保護者の方は作っておられるということなのです。ところが途上国では、学校へ行けない子どもがいますよね。進学していませんがいます。これは確かに貧しいから行けないということもあるでしょう。学校へ行かないで畑仕事している、弟妹の守をしているとか、家畜の世話をしているとか、いろんな子が

います。どうして進学できないかという根本的な問題は、この放棄所得を家計が吸収できないという問題に帰結します。その子の働きがないとやっていけないということなのです。このことも良く認識しておいてください。

### 七、放棄所得の発生日例―フィリピン

今日お渡ししたレジメの中に載っておりますが、本当に放棄所得を発生させている実情を見て頂くために、NHKBSで放送された「お母さんに会いたい」という番組の一部をご覧頂きたいと思います。ムスリムの兄と妹に焦点を当てたドキュメンタリー番組で、二〇〇四年一月に最初に放映されたのですが、何度か再放送されております。私は最初に観た時は、途中からでしたので全体が解らなかつたのですが、再放送の時に最初から最後まで全部観ました。実際男泣きをしました、これを見て。どの様な状況にこの子たちがいるのかということについては、本当に胸を打つものがありました。これはですね、ここに地図がありますが、二人の兄妹、兄はノラルディン、当時一〇歳です。妹がマリマルというこの子は八歳です。妹は小学校一年生、兄は小学校の四年生ぐらいの子ですよ。兄

は家計を助けるために働き学校へは行けない。妹は、生まれ故郷の学校ではなく、兄の働いている街の学校に一年遅れで入学しています。彼らの故郷はミンダナオ、フィリピンの一番南にあるこの島です。この二人が働いているのは親戚のいるバギオという北部の街です。そこで何をやっているのか。市場で買い物客に買い物袋を売ってお金を貯め、実家へ送金しているのです。お母さんも病気、お父さんは結核で働けないという家庭です。ですから、彼らは、教育を受けるどころではなく、彼らの働かないと生活ができないという家庭状況なのです。

——番組上映——

これは妹のマリマルが北部のバギオの小学校へ行った時の映像なのですが、宗教がムスリムだからやはりイジメを受けるのですね。それから南部のムスリム圏と北部のキリスト教圏とは言葉が違うのですね。それで担任の先生がいろいろと補習をしてくっさるといふ状況を示しております。

これは南部の方はテロリストがおりますから、南部のムスリムは北部へ行ったらテロリ

ストだって言われるという状況を示しています。

これは貯金をしてお金を貯めて親元へ送る手続きをしている兄の様子を示してんですね。兄妹の厳しい実情を知る人々は送金についても協力的ですね。

これは、キリスト教徒の子どもたちと、ムスリムの子どもたちが交流する状況を示しています。

この後、お金が貯まってミンダナオへ帰ります。これは帰ったその日のシーンですね。故郷で農地を借りていて、そこで米を作っているのですが、父親が働けないので大した収穫量にはならないですね。

はい、どうでしたでしょうか。ちょっと長くなりましたけれども。これが途上国における実情であって、放棄所得を吸収できない現状がどういう状況かということを実に示すものですね。これを吸収できない家計ってこれほど厳しいものがあるわけですね。結局バギオで買い物袋を売って、お兄ちゃんの方は学校へ行っていない。妹の方は一年遅れで小学校へ入った。でも、言葉が違う、ムスリムってことでイジメに遭遇し、非常に辛い思いをしているわけですね。実際親戚を頼ってもお金を貸してくれないし、ミンダナオへ帰る

のに二〇〇ペソの船賃がいる。お母さんに会いたいから、船賃を稼ぐために必死で働いてお金を貯めて故郷へ帰った。故郷へ帰って八日間だけお母さんの元で一緒に暮らせた。ですから、帰った日はもうお兄ちゃんのノラルディンもマリマルもお母さんのとこで一緒にベッドで寝たようですね。二年ぶりだったと言っておりました。ちよつと時間がないので出せなかつたですけども、これが途上国の子どもたちの現状であり、日本のBSで放映されてから、視聴者から何とかならないのかという声がたくさん出てきたようです。その結果、あつという間に奨学金が集まり、市場で買ひ物袋を売る子どもたちは学校へ行くことができるようになったとのことでした。少なくとも学校へは行けるようになった。こういうことを後日談として聞いております。ノラルディンという子は非常に澄んだ眼をしていますね。彼は、キリスト教徒の子どもとの交流の中で、どういうことを言ったか。一〇歳で学校も行けないで苦労している子がね、どう言ったか。「交流をしてお互いが理解しあえた後に僕はもつと勉強をしたい。今は学校へ行つてないけど、もつと勉強してフィリピンの大統領になりたい。ムスリムとキリスト教徒と一緒に仲良く暮らせるような国にしたい」と言ったのですよ。すごい発言だと思いませんか。

おわりに

これは途上国における問題であって、教育に関わる放棄所得を吸収できないような場合は、こういう実情があることをよく知っていただきたい。みなさんは放棄所得の問題をあまり気にしないで高等教育機関へ進学していらつしやるということですから、この機会を決して無駄にすることなく、とにかく最後まで頑張つて頂きたいと思います。ここに出ておきますように、いわゆる大学・短大教育の投資・消費のコストでありますけれども、消費に加えてあまり感じない間接費、これが放棄所得に当たるものですが、これはです、非常に大きいということを理解してください。ですから実際は得られた所得機会を捨てて進学をしているわけですから、その投資を将来回収するってことを考えて、勉学に励んで頂く必要があるのではないかと思います。特に教育においては、負担をする人と受益者、教育サービスを受ける人が一致していません。ここが非常に大きな特徴なのです。ですから、自分が辛い思いをして学費を稼いで勉学を続けている場合だったら、その価値を容易に理解できるのですが、誰かに負担してもらっている場合は、なかなかそれが感じら

れないものです。教育は、負担者と受益者が一致しないことも良く頭に入れておいて頂きたいことなのです。最後のまとめとして三つの点を今日は最後に強調しておきたいと思えます。

一つは、大学・短大教育によって、技能・知識を高めることができ、それは体内に蓄積されます。高められた能力は人生を豊かにし、人生をより安全なものにする可能性を高めるものなのです。これは一種の保険です。大学へ進学して教育を受ける事は、より人生の選択幅を広げる、より人生を安全なものにする、豊かなものにする、これは保険の一種だと考えてください。知識というのは必ず頭の中に入り定着します。これは、たとえば良くないかも知れませんが、ナチスがドイツを席卷していた時代、第二次世界大戦中ですね、あの時代、ユダヤ人はどういう状況に置かれたか。収容所へ送られて、ガス室に送られて、みんな殺されたわけですね。ナチスのこういう行為は、二〇世紀の汚点の一つだと私は思います。人類の反省点の一つだと思のですが、昔からユダヤ人は抑圧されてきた。彼らは職業選択の自由も奪われ、『ベニスの商人』というシェイクスピアの小説を知っている人どれぐらいいますか？ 聞いたことある人？ いますか、はい。あの中でえげつない金貸しでシャイロックというのが出てきますね。歴史的に職業上、金貸しというのは卑

しい仕事だとされていきました。ユダヤ人は、そうした職業にしか就けなかったわけですね。時代が変わってもユダヤ人はいつも抑圧を受けてきたわけです。そのため彼らはお金を扱うような仕事に追い込まれていたから、銀行家になるしかなかったと言われていいます。こうした歴史的体験から、ユダヤ人たちはどういう仕事に就いたのか。医者、弁護士です。医者と弁護士という職業は、工場の機械といった固定資本を持っていないとお金儲けにならない職業ではないですよ。土地を持っていないと仕事にならないかといえば、決してそうじゃないですね。自分の知識と技術、頭の中に入っているもの、頭の中に入っている知識・技術は資本財と同じ様な役割を果たすものです。ですから、聴診器等の診察用具、法律関係の書籍があれば仕事ができる。こういう専門職に就く人たちが非常に多いと言うのは歴史的体験から生じたものなのです。ですから、みなさんが高等教育機関で知識・技術・技能を身に付けられるということは、頭の中に知識が蓄積され、それは自分にとっての資本財になるということなのです。機械・道具・土地というものと同じような富を生み出すものになるわけです。高等教育は、幅の広さを提供する可能性があるものですから、高等教育を受けるといことは、自分自身の人生を豊かで、そして選択の幅を広げ、安全なものにする効果を持つているということになります。

しかしながら、先ほどもスリムの兄妹の話し、ちょっと時間をかけて観て頂きましたけれど、途上国の子どもたちが学校へ行けないのは、家計が貧しくて放棄所得を吸収できないからでしたね。ですから、大学・短大進学については直接費に加えて間接費としての莫大な放棄所得の発生を認識しなければなりません。このことをよく理解してください。自覚が求められます。ですから、日々の授業を欠席する、授業中寝る、しゃべる、これは損の上にも損を重ねることになるのです。絶対にそういうことなく、熱心に学んでください。それから、もう一つ重要なことは、繰り返しになります、さっき申しました教育の受益者と費用負担者が違っている場合がほとんどだということです。ですから、自分の教育機会が得られているのはどういう負担構造の中で今日の教育機会が保障されているのかということ、まず良く理解をして頂きたいと思っております。

教育を少し違った切り口で見えますと、こういう話ができるわけですね。時間があればもう少し深めた話をもっとやりたかったのですが、今日は十七時半までに終わるように小澤先生に言われておりましたので、これぐらいで話を終わりたいと思います。今日の話は少しでも理解して頂き、今後の大学・短大での学習にぜひ役立てて頂きたいと願っております。ご静聴有難うございました。